

2017年 JSAPD オープンセミナー抄録

CAD/CAMオールセラミック修復におけるリスクファクター

近年の歯科用CAD/CAM器材の発展はめざましいものがあり、オールセラミック修復における酸化物セラミックスであるジルコニアセラミックス審美領域への応用という進化は今日めざましいものがある。一方ガラスセラミックスも、2ケイ酸リチウムガラスセラミックス材料において複数の日本メーカーのオールセラミックマーケットへの参入が本年あいついで行われている。これらのことは今後補綴修復における治療方針、とりわけ審美性および予後を考えた場合の材料の選択に益々影響を及ぼすものと思われる。そこで今回オールセラミック修復におけるリスクファクターとして、接着、形成また前歯部などの審美領域への適用が広がりつつあるジルコニア材料の使用にあつたてのリスクファクターをまとめてみた。さらにCAD/CAM新時代（第3の時代の幕開け）にあつたてのデジタル模型の信頼性などにもふれてみたいと思う。

岡村光信